

令和2年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園
桃の木台幼稚園

当園ではこの度、令和2年度の桃の木台幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受け止め、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園是「あかるく・すなおに・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の充実、施設の改善などに主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

- *心身共に健やかな成長を願い、園児一人一人が自ら考え、行動する力を養う。
- *教職員の協力や連携体制を強化し、質の高い教育ができるように努める。
- *感染症対策を強化する。

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	教育目標が反映されるよう保育目標を定め、園の方針や目標について保護者の理解を得るよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none">・年度初めの全体会議において、本年度の教育目標を設定し、教職員の教育に対する意識を確認する。・年・月・週単位の保育目標を設定し、「園だより」や「学年だより」を発行し、目標達成に向けての取り組みや状況を各家庭にお知らせし、理解、協力をお願いしている。内容をわかりやすく発信するよう心掛けている。・今後も、子どもの様子やクラス全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させ、園と保護者との相互理解を深めていけるよう検討する。

2	教育課程の編成	教育目標である「明るく・素直に・健やかに」が日々の教育活動に反映されるようそれぞれに各領域に示すねらいや内容を結びつけて教育課程を編成していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の内容に沿っているか検討しながら、毎月の指導計画を立てている。 ・日々の保育終了後、各自で一日の保育を振り返り、評価反省を行い、次の保育に繋げている。 ・期待される幼児像を明確にし、発達の各時期にふさわしい生活が展開されているかを確認しながら常に評価、改善していく。 ・教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省・見直しをして次の保育に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの一年間の育ちを想定しながら、子ども達にどのように育てたいかを考えて指導計画を立てる。 ・園児登園までに、その日の園全体、学年ごとの目標や計画を確認し、充実した保育ができるように話し合っている。 ・放課後には、一日の問題点、改善点などを話し合い、園長、副園長をはじめ、教諭間で評価や助言を受けるようにしている。また、週単位での各領域の目標達成度を自己評価し、次の保育に繋げている。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。(指導案の反省、クラスの状況報告など)
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。また、異年齢による縦割り保育も実施している。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の年齢に応じた運動、教材(たのしいおべんきょう)、絵画制作や音楽などの表現活動に取り組んでいる。 ・子ども達が予測を持って行動できるよう、一日の流れをイラストで示している。 ・恵まれた自然環境を活かし、四季の移り変わりを知り、心身共に豊かに成長していけるよう援助している。 ・自園畑に自分で種や苗を植え育てた野菜を使って、クッキングを楽しみ、食に対する関心や感謝の気持ちを深めるようにしている。 ・オープンクラス(異年齢による縦割り保育)を実施することにより、責任感や思いやりの心を育てていく。
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう年齢や発達に	B	<ul style="list-style-type: none"> ・通園バスに乗る瞬間から保育が始まっていると考え、園児の気持ちに寄り添い、楽しく安全に登降園する。 ・登園時と降園時には、元気に挨拶を交わし、一人ひとりとスキンシップをし、健康をチェックする。また、1日安心して過ごせるよう、愛情を持って言葉をかけるようにしている。 ・年齢に応じた保育を、無理なく、楽しんで学べるように工夫し、好奇心を伸ばしていけるよう指導している。一人一人が目標を達成できるよう励まし、喜びと自信に

		応じた関わり方をしている。		繋げていけるようにしたい。
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に園での決まり事などを確認し合う。 ・幼児の個々の情報を共有し、どの職員がどの子どもにも対応できるように心掛けている。その場で配慮が必要な時には、近くにいる教師が幼児に適切な言葉かけをし指導する。 ・保育に関して、教職員間でお互いに報告、相談し合い、幼児に寄り添った保育ができるように取組んでいる。 ・アレルギーやひきつけ脱臼など、体質や健康面で配慮の必要な子どもについて職員間で共通理解を図っている。 ・日々の体調など教職員が気づいたことや、保護者からの連絡を速やかに伝え、安心して園で過ごせるような環境づくりを心掛けている。 ・教職員同士で何でも相談できる、風通しの良い環境・雰囲気づくりをする。
7	研修・研究への取組み	配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・必要に応じて保健センターなど専門機関に相談し、保護者と連携しながら保育を進めている。 ・教員が各分野に分かれ外部研修に参加し、各自のスキルアップに努めている。また、習得した事柄について、園内での発表や意見交換をし、視野を広げている。今後はもっと積極的に研修等に参加したい。
8	安全衛生への配慮	清潔の習慣についての理解を深めると共に、トイレの正しい使い方を具体的に示している。 感染症予防のために手消毒等細かい指導をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康やうがい、水分補給の大切さを絵本や紙芝居、保育者の話を通して具体的に知らせるようにする。 ・全園児が手洗い講習を受け、清潔への関心を持ち、進んでできるようにする。 ・トイレの使い方について、スリッパの並べ方やトイレットペーパーの使い方等を子ども達に伝え、自主的にできるように取組んでいる。 ・感染症を広げないための知識を教職員間で話し合い、換気や身の回りの除菌などできる事から取り組んでいる。また、子ども達にも習慣として身につくよう指導している。
9	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルを整備し、守れているか教職員間で確認しあっている。 ・各保育室に空気清浄機、加湿器を設置し、園児の机、バスの中の除菌・消毒などで感染症の拡大を最小限にできるように心がけている。また、園の玄関にアルコール消毒液を置き、園児はもちろん保護者や来客についても手

				<p>消毒を徹底し、園内にウイルスを持ち込まないようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等が流行する時期に合わせて、保護者にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。 ・AEDの使い方の確認をし、定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。
10	安全管理体制の整備	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故発生を未然に防ぐことが出来る体制を整えている。また、危険なところを発見した場合、園内で連絡をし、速やかに補修するようにしている。 ・遊具の下に安全マットを敷くなどして環境を整え、園児から目を離さず、安全に遊べるよう配慮し、見守るようにしている。また遊具を正しく安全に使い、危険な遊びをしないようにルールを決め指導している。
11	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ、防犯ベルを設置し、門を施錠するなどし、防犯体制を整えている。 ・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時に園児を守る為の対応手順についての共通理解を深める。
12	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時や着替えの時に視診を行い、園児の様子・状態を確認するようにしている。また、不審なげや、不潔な様子、欠席が続くなど気づいたことがあれば、職員間で共通認識し、観察するよう心掛けている。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に家庭訪問（令和2年度は電話で）を行い園児の家庭環境や家庭での様子を知り、園生活が円滑に進むよう取り組んでいる。 ・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。（令和2年度は感染症対策のため参観日を2日に分け実施） ・日々の連絡や出席ノート、また園独自の学期ごとの連絡票を活用して、保護者との連携が取れるようにしている。 ・緊急連絡や園でのトピックスなどSNSで配信している。 ・地域の子育て家庭に日程を知らせ、未就園児園庭開放を開催している。またその際、保健師さんにも来ていただき、保護者の子育て相談にも応じている。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	指導計画が幼稚園教育要領に沿ったものであるか、一人一人の発達段階に反映されているか、無理のない計画であるかを考え、入園から卒園までの長期的な計画と指導していく。
2		評価の視点を明確にしておくことで、教職員のさらなる評価の充実を図ると共に、必要があれば見直し、改善を行う。
3	保育の質の向上	教職員一人一人の資質向上が、園全体の質の高い保育に繋がることを意識し、常に研究、研鑽に努める。また、研修に積極的に参加し、知識などを学ぶと共に、園内研修を充実させ、積極的に評価し合えるようにする。（令和2年度は少なかった）
4		保育について入念な準備をし、子どもが無理なく楽しんで知識や体力を習得できているかを園全体で検討していく。また、園行事についても積極的に意見を出し合い、より良い物にしていきたい。
5	保育環境の充実	恵まれた自然環境を活かし、園外活動や体験を充実させていく。
6		教職員との信頼を深め、幼稚園が安心できる場所として、子ども達のがのびのびと活動できる様にしていく。
7		預り保育の時間を延長・充実させ、保護者のニーズに応じていく。
8		小学校との連携を深める（入学後も安心して生活できるように）。
9	保護者との連携の強化	園での様子を伝えると共に、保護者のニーズも把握し、一人一人に寄り添った丁寧な保育を目指す。
10		保護者に積極的に参加していただき、園行事をより充実させていく。
11		「園だより」や「学年だより」などを、保護者の感想も参考にしながらよりわかりやすく発信する。また、緊急時にはLINE@を利用し、速やかに保護者に連絡する。
12	防災対策の強化	火災・地震を想定した避難訓練を実施することで、全員で避難経路や消火活動、通報手順などを確認しあい、スムーズに避難できるようにする。今後は保育中や通園途中など様々な場面を想定し、予期せぬ地震発生に備え、マニュアルを確かなものにする。
13	安全管理体制の強化	感染症に関して、菌やウイルスを園に「持ち込まない、広げない、持ち返さない」を徹底し、園と保護者が協力し合い、予防に努める。
14		定期的かつ入念に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐ事ができる体制を整える。
15		門の施錠など、防犯体制を強化していく。危機管理マニュアルを作成し、不審者侵入時に園児を守るための対応手順についての共通理解を深める。

16		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携を取るなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。なるべく早期に発見できるようにする。また、園児だけでなく、保護者の発信するSOSを見逃さないようにしていきたい。
17	その他	交通安全指導などで覚えたルールを、園だけでなく、家庭でも守っていただけるよう発信し、交通安全の意識を高める。
18		園児募集や、未就園児園庭開放のお知らせなどわかりやすく発信する。
19		地域の方々との交流の場を持ち、広く園を知っていただくと共に、助け合いができる環境を作っていく。（令和2年度は交流が少なかった。）

V. 学校関係者の評価

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、園行事を中止せざるをえなかったり、また規模縮小など本来の行事内容の前に感染症対策に時間を費やすなど、行事運営にあたり大変なことが多々あったかと思えます。しかし、そのおかげでもあり、園関係者から感染者がおられないのは何よりうれしいことだと思えます。日頃から積み重ねてきた清潔習慣の指導もこのような結果に繋がっているのでしょうか。

また、園行事が教育目標に沿った子ども達にとって最善の計画となっているか、行事を消化するだけの物になっていないかなどよく考え、見直す機会にできればと思います。

先生方がどのクラスのどの子にも優しく接してくれるのがうれしいです。今後も園職員全員で日頃から心掛けている「丁寧な保育」をめざし、子ども達を健やかに育てていきましょう。